

生活環境グループ／第2回会議報告書

日時：2025年10月12日(日) 10:00～12:00、オンラインシステム(Teams)にて開催

出席：EC千葉会員6名

議題

1. 取り組む具体的なテーマ

○高齢者や独居者の見守りと生活サポート手段の現状調査とサービスソフトの提案

1) 間氏が作成され「Lenovo AI Innovation Challenge 2026」参加で発表された動画(訳10分間)を視聴した後、間氏より内容の説明があった。

- ・各自治体などでは異常時の対応サービスがあるが、異常時だけで通常時でも活用できる見守りソフトの開発を目指している。
- ・パソコンソフトを活用した「見守りシステム-1」および電力の配電盤を活用した「見守りシステム-2」の2種類を検討。
- ・全国ですで見守りシステムを導入しているところがある。現状を調査しよう。
- ・今後、協働できる団体を探す。大学では、千葉大、千葉工大、日大、東京電機大学など。
- ・地方の自治体で見守りソフトに必要性を感じているところへ紹介。

2) 八千代市の例

- ・高齢者を対象にしたサービスとして「緊急通報システム」がある。
ペンダントを押すと電波をキャッチし、電話回線を通じ警備会社のコントロールセンターへ緊急通報を発信。警備会社が自宅を訪問し対応する。個人の経費は電話回線料の150～300円／月程度。装置は八千代市が提供する。部屋に1台設置するセンサーもある。課題は合鍵を警備会社へ渡すこと。

3) 市原市の例

- ・市原市保健福祉部高齢者支援課より「健康と暮らしの調査」調査表が届いた。
これは、市原市が高齢者を対象に「日本老年学的評価研究」と共同で調査をおこなっている。

4) 船橋市の例

- ・船橋市では様々な高齢者向けサービスを掲載した「介護保険・高齢者福祉ガイド(約120ページ)」を作成し配布している。

2. 今後の進め方と方法

①千葉県内における各自治体の現状調査

- ・各地域別会員に現状調査の協力をお願いする。調査票の項目は承諾された。
- ・各自治体のホームページから検索できる。

②新たなサービスソフトの検討

- ・ソフト開発は、間氏が進める。今後数年はかかるであろう。

③EC千葉で実施可能なサービスソフトの提案へ

- ・EC千葉はソフトの開発を行うが、直接行動するのではなく、サービスのフォローを予定している。

(記)井町臣男

EC千葉会員のみならず、多くの方々からのご意見やご感想をお待ちしております。

【連絡先】EC千葉事務局: ecchiba_jimukyoku@ecchiba.sakura.ne.